

二〇一四年 九月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

賢い人よりも 心の温かい人が なつかしい

※なつかしい：親しみがもてる

南アメリカの先住民に伝わる次のような話があります。

「森が燃えていました。森の生き物たちはわれさきにと逃げていきました。でもクリキンディという名のハチドリだけは行ったり来たり、口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上にと落ちていきます。動物たちはそれを見て『そんなことをしていったい何になるんだ』と笑います。クリキンディはこう答えました。『私は、私にできることをしているだけ』」

広島のと砂災害、伊豆大島の台風被害、今もなお復興が続いている東日本大震災。大災害を受けて、ボランティアをしたり、募金をしたりしている人を見て、本当に役に立つのだろうかとか冷めて、小賢しく考えてしまうことがあるかもしれません。

しかし、私一人は微力ではありますが、無力ではないのです。クリキンディのように「私は、私にできることをしているだけ」と行動できる人こそ、「心の温かい人」なのでしょう。

今月の言葉には、そのような人にこそ親しみがもてると示されます。そんな心の温かさが一つまた一つとつながっていくことで、大きな力となるのです。

今月の聖語

怨みに報いるに怨みをもつてしたならば、

ついに怨みのやむことがない。

※報いる…：受けた行為に対して相応のことを返すこと

『ダンマパダ』

一九五一年、サンフランシスコ講和条約が結ばれました。第二次世界大戦と国交回復について日本と連合国との間で結ばれた条約です。その際、敗戦国であった日本は各国から厳しい制裁措置を受ける状況でした。

しかし、スリランカ代表のジャヤワルデネは異なりました。当時スリランカは日本軍から空襲を受けるなど少なからず損害を受けていました。にもかかわらず、彼は今月の聖語を述べた上で、日本への損害賠償の要求をしないという旨のスピーチを行ったのです。

このスピーチが、当時日本に厳しい制裁措置を加えようとしていた諸外国代表の心を打ち、日本の国際復帰への道につながったといわれています。本条約締結後、世界で一番早く正式に日本と外交関係を結んだのもスリランカでした。

これは歴史さえも動かしたブッダのお言葉です。そしていまもお、我々に語りかけているように思われます。怨みを怨みで返しても怨みはやまないし、何も解決しない、と。